

臨場感

2025.1.27

なぜ、いただいたメールやラインの文面を紹介しているのか。改めて、いつまでも、心に刻みたいという思いがある。何もしなければ、スマホやパソコンの中で埋もれてしまう。記憶は、徐々に薄らいでいく。せめて、この紙面に残したい。

手元に届けていただきました【人生は、燁燁と 校長室だより100選】、早速読ませていただきました。実は私は梁川高校のホームページをたびたび閲覧して、この校長室だよりを読むことを毎日の楽しみにしていました。

高澤先生の筆の卓越さや、視点の鋭さ、生徒や学校に対する熱い想いを臨場感をもって読んできたファンの一人でした。今回、このように章立てして編まれたことで、先生が伝えたいことがより直接届いているように感じています。

なかでも「杖ことば」は、私自身も日々感じていることで、大変共感しました。この「杖ことば」は、前任の〇〇学校の時に、保護者向けの研修会で紹介させていただいた覚えがあります。

また、「春がくる、待望の春が」は、まさに会津にいたときに私も実感したことです。

とてもすべては書ききれませんが、どれも自分のことに引き付けたり、未熟な自分を顧みるよすがとなっています。これからも大切に手元においておきたいと思います。

高澤先生の豊富な知識と経験に基づいた、温かみのある文章に心を打たれた読者は私だけではないと思います。この度は素晴らしい作品を世に出され、誠におめでとうございます。

これは、長文の一部である。読んでいて、その場にいるような感覚になる文章がある。自分では、そうなることを意識しているわけではないが、そうなっているとすれば嬉しい。“臨場感”である。

このメールの日付は、1月7日である。お正月明けの新学期スタートのタイミングである。間違なく忙しいであろうに、時間をつくってメールを打ってくれたわけである。ありがたい。頭が下がる。

今までにいただいたメールやライン、手紙、電話は、これからまた前に進もうとする自分にとっての“よすが”となるものである。ある方からのメールに、以下の文面があった。

いつも先生の通信を拝読しながら感じていることですが、経験は長さや種類と同時に、深さも大事なのだということを今回のご著書においても感じさせていただきました。

経験の“深さ”、なるほどである。勉強になる。『人生は、燁燁と 校長室だより100選』は、読み終わった方が、ご家族や職場の方にお渡しして、また読んでいただいていると聞く。皆さん、どんな読後感をもってくださったのだろうか。機会があれば、お聞きしたい。